中学校第１学年２組　国語科授業案

平成２４年１１月２２日
場　所　１年２組教室
授業者　大　串　浩　介

【キーワード】　学習用語(象徴，題名)　ランキングづくり

１　単元名　小説を楽しく読もう

２　単元の目標と評価規準

(1)　単元の目標

題名の働きを理解させるとともに，小説を象徴する語句との関わりに気付かせる。

(2)　単元の評価規準【学力デザイン　レベル３】

ウ　小説を象徴する語句を捉えている。【読むこと】

イ　題名の働きを知り，文章との関連性に気付いている。【読むこと】

ア　個別・協同学習を通して課題を解決し，学習成果をその後の学習に調整を加えようとしている。【学ぶ力】

エ　語句の辞書的意味と文脈上の意味の違いに気付き，語感を磨くことができる。

【言語についての知識・理解・技能】

３　単元を貫く問い　あなたは小説を象徴することばにどこまで迫れるか？

４　生徒の実態

生徒は小学校において，「しかけ」の観点をもって物語を読み，それを分類する学習などを経験している。また，1年次1学期では，口語自由詩を作者の意図を読み取りながら朗読する学習を経験した。作品の表現の特徴を捉え，作者の意図を考えようとする生徒が多い。一方で，作品の表現に用いられている語句を辞書的な意味でしか捉えることができていない生徒もいる。

そこで本単元では，既習教材などによって題名の働きを確認させ，さらに小説の原題を推測させることによって，小説を，貫いて象徴している語句に迫らせたい。

５　内容

小説の題名には，作者の意図や工夫が働く。書店に並ぶ書籍類でまず目にするのが題名であり，読み手をひきつけるきっかけともなる。今回学習する「少年の日の思い出」の題名は，1911年に発表された初稿では「クジャクヤママユ」である。それから20年後，改めて新聞に掲載した際，作者であるヘルマン・ヘッセが題名を「少年の日の思い出」とした。ヘッセが題名を変更したことには意図があると考えられる。「少年の日の思い出」は「クジャクヤママユ」に比べ，内容の想像が容易であり，だれにでもある経験として親しみがある。逆に「クジャクヤママユ」は，内容の想像が難しく親しみが薄いものの，小説の主題を象徴的に表す面において優れている。

本単元では，「あなたは小説を象徴することばにどこまで迫れるか？」という単元を貫く問いを設定した。題名の働きには主に「題や述べようとする中心的問題を表す」「話題を表す」「内容を要約的に表す」「時・所・人物・出来事のきっかけを表す」「主題を暗示的，象徴的に表す」「読み手への呼びかけを表す」などがあり，本単元では，中でも「主題を象徴的に表す」働きに着目する。題名と内容の関連性は高いということを確認させ，本文中の語句から原題を探させることによって，本教材に用いられている象徴に迫らせていきたい。

６　方法

(1)　学習用語（象徴，題名）

本単元では，まず，既習教材によって題名の働きを確認させる。さらに小説「カメレオン」を用いて，題名の「主題を象徴的に表す」働きに着目させる。この「象徴」という観点をもって「少年の日の思い出」を読むことによって，「象徴」という学習用語を単なる知識としてではなく，実際の読む活動へとつなげ活用させる。

(2)　言語活動

① 小説を象徴する語句に迫るために，語句を比較する。

② 自分の考えを広げたり深めたりするために，共感的・批判的に聞く。

③ 題名の働きを整理し，知識の定着を図るために， 分類する。

7　単元の授業過程（全７時間）

過程	課題と内容 ［言語力の要素］	時間	教師の指導・支援	評価とその方法
導入	1 小説の題名があらわすことをつかもう。	1.5	1-(1) 小学校で学習した物語の題名を複数提示し，内容を想起させ，題名との関連性に気付かせるとともに，題名の働きを確認させる。 1-(2) 「カメレオン」（東京書籍）の題名のみを提示し内容を考えさせる。 1-(3) 「カメレオン」を通読し，登場人物の言動が題名によって象徴的に表されていることを確認する。	エ 語句の辞書的意味と文脈上の意味の違いに気付き，語感を磨くことができる。【発表・ＷＳ】
	2 単元の見通しをもとう。	0.5	2 「問い」を知らせ，単元の目標を明らかにする。	
	【問い】あなたは小説を象徴することばにどこまで迫れるか？			
展開	3 本文を通読し，「少年の日の思い出」の原題を探ろう。 ［⑧共感的・批判的に聞く］ ［⑰分類する］	2本時1／2	3-(1) 「少年の日の思い出」の原題はなにか考えさせながら，通読させる。 3-(2) 「少年の日の思い出」の原題として考えられることばを，挙げられるだけ短冊に書き出させる。その際，なぜそのことばを選んだか理由まで書かせる。 3-(3) 短冊を黒板に貼付させ，学級全体の交流を図る。	ア 個別・協同学習を通して課題を解決している。【WS】 イ 題名の働きを知り，文章との関連性に気付いている。【発表・WS】
	4 小説「少年の日の思い出」を象徴することばに迫ろう。 ［⑲関連付ける・構造化する］ ［⑮比較する］ ［⑥対話する］ ［⑧共感的・批判的に聞く］	2	4-(1) 「少年の日の思い出」の「原題候補ランキング」を作成させる。 4-(2) ランキングの中で，なぜその順位にしたのか理由も書かせる。その際，ほかの語句との比較があればわかりやすくなることを伝える。 4-(3) グループや学級でランキングの交流を行わせる。その際，理由も併せて伝えさせる。	ウ 小説を象徴する語句を捉えている。【発表・WS】 エ 語句の辞書的意味と文脈上の意味の違いに気付き，語感を磨くことができる。【発表・ＷＳ】
展望	5 単元の振り返りをしよう。 ［⑩振り返りをする］	1	5 「問い」に対する答えを自分の言葉で書かせるとともに，学習用語を参考にさせながら，単元で身に付けた力についてまとめさせる。	ア 学習成果をその後の学習に調整を加えようとしている。【WS】

8　本時の授業

(1)　本時の指導目標

「少年の日の思い出」の原題を探ろう。

(2)　本時の評価規準

ウ　原題を探すことで，小説を象徴する語句を捉えている。【読むこと】

ア　個別・協同学習を通して課題を解決し，学習成果をその後の学習に調整を加えようとしている。【学ぶ力】

(3)　本時に期待する生徒の学び

①　小説を象徴する語句を，原題を探すことによって捉えている。

②　課題の解決に向け，友人と積極的に話し合っている。

(4)　本時の授業過程【全７時間　本時３／７】

過程	学習活動と内容 **【言語活動】**	形態	教師の指導・支援	評価とその方法
導入	1　前時までの学習を振り返り，本時のめあてを確認する。	斉	1「少年の日の思い出」には原題があることを伝え，それを本文から探すことを確認する。	
	課題:「少年の日の思い出」の原題を探ろう。			
	2　本時の学習に見通しを持つ。	斉	2　1時間の流れと作業の時間配分を確かめることで，本時の学習に見通しを持たせる。	
展開	3　「少年の日の思い出」を象徴することばを探す。 **［⑧共感的・批判的に聞く］** **［⑰分類する］**	個 G 斉	3-(1)　原題と思われる語句にマーカーをひかせながら通読する。 3-(2)　グループで考えを共有し，出た考えを黒板に貼らせる。 3-(3)　グループの発表者に，なぜその語句を選んだか発表させる。	**ア**　個別・協同学習を通して課題を解決し，学習成果をその後の学習に調整を加えようとしている。【WS】 **ウ**　原題を探すことで，小説を象徴する語句を捉えている。【発表・WS】
展望	4　次時の学習の見通しを持つ。	斉	4　DLに授業の振り返りを発表させ，授業のねらいを明確化させるとともに学びの成果の自覚化を促す。	